

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	特定非営利活動法人マイWay
-----	----------------

取組の名称	子どもの発達支援及び保護者の子育て支援
実施場所	川崎市高津区下作延6丁目4番3号 エムズヒル マイWay会議室
対象地域	高津区内を中心とする近隣区
対象地域の 特色・課題	乳幼児から高齢者まで様々な世代が住まう地域であるがマンション増加と共に核家族が増えている地域。発達支援が必要なお子さんに対しての事業所も多くあるが、学齢期は居場所的などころが多く、個々の子どもの発達課題への継続的な取り組み、療育にたどりつけていないご家族に対してのアプローチが課題としてあった。
取組の趣旨・目的	「子育てが大変！と感じることは自分だけではないのかも」と思える相談場所として、一人ひとりのお子様の特性に合わせた遊びや教材で「療育視点」での取り組みを行った。 子ども本人には「楽しさ、安心感、自己肯定感」が得られる支援を発達段階に応じて実施、保護者にはプログラムをとおして「子どもの行動の理解」「集団生活や家庭生活への具体的アドバイス」に繋がるように継続的な相談や面談でフィードバックを行った。
実施内容・実施スケジュール	キッズ教室：毎月第1土曜日及び第3土曜日 10時から16時 事業所営業時間 8時30分から17時 事前予約制 療育時間：一人60分（療育40分、振り返り20分、自由遊びも含む） 以下個別療育 アセスメント→療育体験→行動観察により療育の方針を決めた。

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>○課題学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字への興味、描画、絵本、言葉あそびを通じた認知課題 ・自分の感情に気づく課題、呼吸法、イライラの見える化 ・運動、制作活動、認知ボードゲーム、Zoom クッキング、楽器、玩具あそび、ビジョントレーニング <p>○就学児は学校の様子に合わせた活動を中心に活動プログラム作成</p> <p>○保護者へは「子どもの行動の意味」を踏まえ「子どもへの声掛け方」を示した。</p> <p>○地域活動として計画したサッカー体験などの試みはコロナ禍のため実施できず。</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>小学校1年～小学校4年</p>	<p>定員（1回あたり）</p>	<p>1～2名</p>
<p>実施頻度</p>	<p>毎月第1、3土曜日</p>	<p>活動日数（年間）</p>	<p>15日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>臨床発達心理士 1名 ・保育士 2名</p>		
<p>連携する団体・連携の手法</p>	<p>（株）日本ヴォーグ社 季節の手作りなど</p>		
<p>取組実施により見込まれた効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭内での日々の大変さや学校での出来事を話してもらうことで、活動の裏付けとしての子どもの行動の特性が見えてくるものもあった。意識をしなければ見逃しそうな小さな子どもの変化を「発達の視点」で伝えたことで「子どもの今」を捉え、保護者が負の考え方にならないように配慮することができるようになった。 2. 制作課題での集中力、器用さなどから感覚統合を意識したトレーニングを取り入れ、感情の見える化を支援した。 3. ZOOM 準備や通所の際の引率など、父親が積極的に協力するなか、療育中の子どもの様子を見ることで成長の変化を保育士と共有し、子どもの小さな変化を実感できた。 4. 家族みんなで子どもの言葉や行動を受け止めながらも、「叱る」ことも必要な時であると子育てに余裕を感じられるようになったと具体的な報告があった。 		